

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

事業名 一般国道38号 <small>あかひら</small> 赤平バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道赤平市幌岡 <small>あかひら ぼろおか</small> 至：北海道赤平市茂尻中央北1丁目 <small>あかひら もじりちゅうおう</small>	延長	6.4 km
事業概要 一般国道38号は、滝川市、赤平市、芦別市、などの中空知地域の各市から帯広市・釧路市を結ぶ延長約298kmの主要幹線道路である。 このうち赤平バイパスは、赤平市街部の交通混雑の緩和による日常活動圏中心都市へのアクセス向上や物流の効率化を図るとともに、地域プロジェクト及び観光の支援などを目的とした延長6.4kmのバイパス事業である。		
S61年度事業化	S61年度都市計画決定	S62年度用地着手
全体事業費 約110億円 事業進捗率 91% 供用済延長 3.4 km		
計画交通量 5,100台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 3.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 16/149億円 (事業費：7/131億円 維持管理費：8/18億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 49/216億円 (走行時間短縮便益：42/211億円 走行費用減少便益：5/4億円 交通事故減少便益：2/1億円)
感度分析の結果 事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.6 (交通量+10%) B/C=1.3 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.4 (事業費+10%) B/C=1.7 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.3 (事業期間+20%) B/C=1.5 (事業期間-20%)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（年間渋滞損失時間の削減が期待される） ・円滑なモビリティの確保（当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する） 他8項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 若見沢市を始めとする関係9市16町1村の首長で構成される北海道空知地方総合開発期成会より、毎年事業促進の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成元年より、エルム高原周辺の整備が始まり、平成6年には、赤平市花卉園芸振興公社が設立され「らんフェスタ」が毎年開催されるなど、観光入り込みが増加している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成13年度までに、L=3.4kmを完成供用している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き用地取得が順調に進めば、平成17年度頃に全線供用の予定である。		
施設の構造や工法の変更等 再生材の活用、耐流動性舗装の採用による耐用年数の向上、緑化工法の変更等によりコスト縮減を図っている。		
対心方針 事業継続		
対心方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。